

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第42号 2018年5月5日発行

+++++

エンドウマメ4品種が採れ始めました。有機無農薬栽培です。採りたてエンドウ、また雑穀類各種、借金なし大豆・ウズラマメなど、播いてみたい方があれば、少しですがお分けできます。メールください。

出雲大社と小泉八雲記念館などに行きました（写真）。これでやっと都道府県すべてに行ったこととなります。大国主命の最初の妻ヤガミヒメとの長男キノマタノカミ（御井神）について表敬しなかったのが、島根に行きたかったのです。もちろん彼の消息は古事記の1行にしかなく、日本書紀では消されています。祖父の故郷は岐阜県羽島市の八神、近所に、今は廃線となった竹鼻線終着駅大須のおちよぼ稲荷があります。ここでいただいた水を飲むと健康になるとのことで、子どものころ祖母が一升瓶に汲んできた水を飲まされていました。ラフカディオ・ハーンは大いに尊敬すべき探検民族学者で、お狐様と植物好き、彼の人生にいたく共感しました。そういえば、笠松の夜祭でお狐女についていき、神隠しに遭いそうになったこともあります。どのような因縁があったのでしょうか。

日本村塾ゼミで、自然のなかでの暮らしや生業について皆様と一緒にもっと学び、山村に暮らす楽しみ、人々の幸せや誇りについて語り合いたいです。都市民はもっと自然に親しまないと、人間でないものAIの下僕になってしまいます。仔細を見ないで走り過ぎてはいけない、細部まで忘れてはいけない、時空間の今を大事にしないといけない、などと思うのです。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。友の会会員になっていただければうれしいです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に転送伝達していただけるとありがたいです。

〇報告

1. 植物と人々の博物館

源流祭5月4日に展示「多様な生業」を準備しました（写真）。目前の道路には人も車も溢れていましたが、ただ急いで通り過ぎるだけでした。訪問は能勢さん親子のみでした。例年同じようなことで、道の駅には地元産のものなどほとんどなく、都会の人は山村にまで演歌を聞きに来るのです。もう責任は果たしたと考えて、源流祭の公開解説はやめます。学大探検部収集の民具類も整理・収蔵・展示しています。引き続きご協力をお願いします。

2. 雑穀街道とFAO世界農業遺産 本年6月には準備不足で申請できません

FAO世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」（小菅村井狩）で閲覧していただけます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』序章で雑穀の栽培史、第4章で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

3. 森とむらの図書室

ネパール、ブータン関係を整理し、食文化・民俗関係を整理しています。35mmスライド・ファイルも順次整理しています。順次資料のリストは公開しますので、ご利用ください。

4. 西原の雑穀トラストのクラウド・ファンディング

若者たちが中川さんと一緒に、雑穀保存のために活躍しています。クラウド・ファンディング中です。ぜひご参加ください。

【引用】地域の貴重な雑穀たちを、引き継いでいきたいという思いで始まったプロジェクトです。【地元メンバー紹介】◎ 富澤太郎／やまはた農園／横浜出身、5年前に西原地区へ移住、新規就農。間伐、炭焼きなど山仕事も行う。雑穀生産リーダー ◎長田容子／「西原ife体験宿・したで」オーナー→10年前に移住、のちに地元大工と結婚。古民家をワークショップ形式で再生し、念願の宿をオープン。◎橋本寿美子／びりゅう館 www.facebook.com/zakkokumura/ www.facebook.com/yamahatafarm/ www.facebook.com/SAIHALIFESITADAY/

〇予定

1. 開館作業予定日：2018年5月4日（祝）、14日（月）、18日（金）、25日（金）、6月2日（土）の予定です。

植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。作業にご協力いただきたく、よろしく申し上げます。ご協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。

kibi20kijin@yahoo.co.jp

2. 「憲法に環境原則を追加する提案」についての研究会を認定 NPO 法人環境文明 21（憲法部会）で行っています。次回は 2018 年 5 月 10 日（火）18-20pm、大崎。ご興味があれば詳細をお知らせします。現在の提案書（憲法前文と第三章環境を加筆）は次のホームページで読めます。

<http://www.kanbun.org/2017/170824teigen/170824teigen.html>

3. 藤野での雑穀栽培講習会は駅前の畑を藤野倶楽部のご厚意でお借りして継続します。近日中に日程が出たらお知らせします。
4. 学大小菅実習：6 月 2 日～3 日予定。
5. 講義：7 月 22 日（日）午後 1 時～3 時、話題：日本に伝播したアフリカ起源の栽培植物と料理。JICA 地球広場市ヶ谷（添付フライヤー）。
6. 環境教育学会エクスカーション：8 月 27 日（月）。小菅村、内容未定。
7. 日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。都市農業や家族農業の図書文献は森とむらの図書室（小菅および藤野分室）で閲覧できます。講演や研究報告はホームページで読めます。
8. 民族植物学第 11 号は編集中、遅れていてすみません。第 12 号の原稿締め切りは 2018 年 7 月とします。関東地方の雑穀栽培、アニミズム信仰論など準備しますが、ご寄稿を歓迎します。バックナンバーは第 7 号～第 10 号まで少しあり、希望者に差し上げます。第 1 号から第 10 号まで、すべての記事は植物と人々の博物館ホームページで読めます。メールマガジンもすべて記録してあります。
9. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえながら、自由に書いています。現在はスリランカとバングラデシュの雑穀を学んでいます。『日本雑穀のむら』は序章雑穀との出会い、補論 1 雑穀の用語法を新たに公開しました。『環境学習原論』および『第四紀植物』、“Essence of Ethobotany” はまだ非公開ですが、書き進めています。これらは、下記の個人ホームページで読めます。引用してくださる場合は、順次必要に応じて改訂していきますので、「木俣（2018 未定稿）」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージズ研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo-inch@wine.plala.or.jp

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

写真

植物と人々の博物館の展示、左はエントランス、右は狩猟道具、左下は植物の野外調査道具、右下は図書。





左は小泉八雲がお気に入りだったというお狐様（松江、城山稻荷神社）、右は島根の物産（出雲そば、五穀もち）、中段左は出雲大社の文庫、右は拝殿の注連縄、下段は宇迦之御霊神の社殿（稻荷主祭神、穀物の神）。



